

第3回 郡中200年祭実行委員会の概要報告

1. 開催日時 平成28年2月12日(金) 18時50分～20時45分

2. 開催場所 伊予市生涯研修センター さざなみ館

3. 出欠状況

実行委員 出席人数33名、欠席人数7名

アドバイザー 出席人数1名、欠席人数0名

オブザーバー 出席人数2名、欠席人数1名

事務局 出席人数2名、欠席人数2名

4. 第3回 郡中200年祭実行委員会 次第

1. 開会のあいさつ 株式会社まちづくり郡中 代表取締役 一色克仁

2. 資料の説明と郡中200年祭の総合スケジュール(案)について

別途配布 広報紙 「郡中二百年 郡中を学び合う!広める!創る!」

3. 部会ごとのワークショップ

4. ワorkshop結果の報告と意見交換

5. 閉会

(以下 敬称略)

6. ワorkshopの結果

A部会 子供たちが町の歩みを学び合う企画と実行

出席アドバイザー: 前田眞

出席委員: 吉田京子、奥野勝也、大政五十子、日野桂子、中村禎司、
鶴岡正直、一色克仁

出席事務局: 谷本照美

ワークショップの結果 発表者: 前田眞

子供達をどう巻き込んでいったら良いかでスタートした。子供達が集まる夜市をテーマに話し合った。

・夜市にブースを設けて、郡中のことを勉強する機会が生まれたら良い。

伊予農の生徒が、伝統産業であった「かすり」を使った作品作りをしているが、そのかすりが無くなっている。市民に古布・反物の寄付を呼びかけたら活動が続いていくのでは、呼びかけを子供たちに取り組んでももらえないかが、動機づけとして出た。

・夜市でやっているスタンプラリーの時、かすりとか郡中に関するクイズを子供達が作って、スタンプを押す場所の運営もやってもらう。その呼びかけは、子供達には愛護班から、伊予農には、来良夢委員会等で相談に行く。

呼び掛けるには、チラシを作るとか、かすり等郡中のことを勉強する必要がある。

・初年度は、小・中・高生と一緒に郡中を勉強した成果を発表する場所(伊予彩まつり、ふるさと祭り、公民館祭り等)があれば良い。記念式典で報告できるのが一番。発表の時、さらに郡中のことを勉強したい事を伝えて仲間集めをできたら良い。

・次は、それをブラッシュアップして「紙芝居」づくり等ができれば良い。
テーマは、かすりだけにするのか、鉄道・木材・食べ物にするのか、切り口を提案しながら、同様の流れができれば良い。
「記念式典までに、そんな仕組みを勉強しながら作ることができれば良い」という事になった。これは、既存の仕組みに乗って行けば良いのでやり易いのでは。という話をした。

B部会 まちづくりの歩みのシンボルゾーン「港と五色浜」に親しむ企画と実行

出席オブザーバー： 小原明美

出席委員： 門田眞一、坪内寛、向井幹雄、宮内保雄、水口純子、
日野鈴香、森和志

B部会 ワークショップの結果 発表者：小原明美

- 歴史グループとして分科会・作業部会をつくってみてはどうか。
- 市民・企業に呼びかけてお宝を出してもらい、展示する。
 - ・まちめぐりをしながら見てもらえるよう、いろいろな場所に展示
(宮内邸・栄養寺・黒住教会・彩濱館など)
- 子どものガイドをつくって、案内をしてもらう。
 - ・まちめぐり・町を歩いてもらう。
- 港を舞台に、港でできるイベントができないか。
 - ・三津浜、郡中間のクルーズ
 - ・浜辺で盆踊り大会、フラダンス大会を
 - ・コンサート など
- 駅から港へ(500~600m)歩きたくなるロードにする。
 - ・港へ行ったら、ホッとする空間

C部会 雇用や暮らしを支える産業を学び合い育てる企画と実行

出席委員： 中尾均(代理：武智)、徳田和敏、岡崎良三、一色喜代子、菊澤康、
藤村康雄(代理：川口)、桐嶋正彦(代理：坂本)、片岡直人、
市野孝俊(代理：福岡)、加納祥一、徳本研三

ワークショップの結果 発表者：徳田和敏

今回も産業について話し合いをした。

伊予市の代表的な産業と言えば「花かつお」産業で、ヤマキ・マルトモさんと、
来年、再来年に100年を迎える愛媛県を代表する企業があるという事で、学び合う、
「花かつおを産業を知るとか体験する」をテーマに話し合った。

- ・メインでもなく、脇役でもない食材「花かつお」を中心の料理（レシピ）の募集
- ・「削り節削り」を小学生とか、地元の人に体験してもらって、出汁の取り方等をもう一度広めていく。
- ・花かつお産業と地元の関わりを学ぶ・体験していく企画をする事について話した。
- ・花かつお産業に関しての、企画展示をしていく。
 - 花かつおを食する機会を身近なところで行う・・・地元の人、子供達の参加
- ・伊予鉄道にも協力してもらいながら、地元の企業を巡るツアーの企画
- ・漁港をもっと知ってもらう（何が取れているか、何が旬なのか、どういう魚が多く取れているか）機会を作る。
- ・子供達は電車が大好きなので、郡中線を使って高浜線とか、古町の電車を体験する企画

D部会 お宝発見・再発見、その他の企画と実行

出席オブザーバー：稲田里香

出席委員：渡辺大記、高田裕司、川口和代、若松一心、谷岡扶美、石田美多嘉、
武内英治、武智忠広

出席事務局：安田絹代

ワークショップの結果

発表者：稲田里香

今日は、これまでに出ているアイデアを絞り込む話をした。

1. 商店街の店にのれんをかけよう

- ・テーマとして、のれんのどこかに伊予餅を使う
- ・地域のみなさんに不要な伊予餅の提供を呼びかける
- ・のれん作りには、いっぷく亭の小物作りの方たちや、伊予農の被服科の生徒さんに協力を仰げないか
- ・一斉に商店街にのれんをかけることは難しいと思うので、実行委員の方のお店に1軒でも2軒でも協力していただいて始めてみてはどうか

2. ウォーキングイベントをしよう

- ・郡中と周辺の町を繋いで、そこの歴史を学んだり、関わりとか食を体感出来るイベントにしていきたい
- ・200年祭のときには多くのみなさんに参加してもらえるようにしたい
- ・行きは歩いて、帰りは郡中線やJRに乗って帰るといったような公共交通機関との組み合わせも作っていかればと思っている

3. 郡中200年祭の共通の目印を作ろう

郡中200年祭の活動をしていることを準備期間から周囲の人たちに伝えることが出来る物を作りたい

- 例えば
- ・バンダナのようなもの
 - 首に巻いたり、頭に巻いたりとアレンジが出来るもの
 - ・ワッペン、腕章など

7. ワークショップのまとめ アドバイザー 愛媛大学社会連携推進機構 教授 前田 眞

200年祭の目的である、「郡中を学び合う・歴史に誇りを持ち郡中の名を広める・皆で創る」を参加型でやりたい、住民の中でやりたい。と言う気持ちがだんだん具体的になってきた。

あと、どう動いていくかにさしかかっていると思う。動くことが大事になってくるので、その時、一步前に踏み出せるのかが大きい。思いはいっぱいあるが、前に進めて、いろいろな人たちを巻き込みながらやっていかないと、この事業はうまくいかないだろう。その辺のところもこれから考えて、皆で一緒になって、郡中200年祭・郡中を盛り上げて行ったら良いかなと思った。

ぜひ、これからも皆と一緒に頑張りましょう。

当日の様子を写真で紹介します

A 部会 ワークショップのようす



B 部会 ワークショップのようす



C 部会 ワークショップのようす



D 部会 ワークショップのようす

